



Title	a+a 美学研究 第16号 執筆者紹介
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2025, 16, p. 170-170
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/103425
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

執筆者紹介

田中 均 | たなか・ひとし

大阪大学大学院人文学研究科教授。専門は、ドイツ語圏を中心とする近代美学、芸術における「参加」をめぐる諸問題。著書に『ドイツ・ロマン主義美学』(御茶の水書房、2011年)、訳書にクリストフ・メンケ『芸術の至高性』(共訳、御茶の水書房、2011年)など。

高安啓介 | たかやす・けいすけ

大阪大学大学院人文学研究科教授。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。専門はデザイン思想史。現在は、ソーシャルデザインの実践をめぐって、歴史・美学・倫理など、様々な角度から考察をおこなっている。著書に『近代デザインの美学』(みすず書房、2015年)。

上田假奈代 | うえだ・かなよ

詩人。NPO法人ことばとこころの部屋(ココルーム)代表理事。堺アーツカウンシルプログラム・ディレクター。大阪公立大学都市科学・防災研究センター研究員。大手前大学非常勤講師。(一社)Prison Arts Connections理事。「ことばを人生の味方に」歩いている。

秋庭史典 | あきば・ふみのり

京都大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、名古屋大学大学院情報学研究科教授。専門は美学。著書に『絵の幸福—シタラトモアキ論』(みすず書房2020年)、『あたらしい美学をつくる』(みすず書房2011年)など。

服部 正 | はっとり・ただし

甲南大学文学部教授。大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学。兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館学芸員を経て現職。専門はアウトサイダー・アート、アール・ブリュット、障害者の芸術活動の研究。

山下晃平 | やました・こうへい

京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程修了。博士(美術)。現在、神戸学院大学人文学部講師。専門は、近現代の芸術論、表象文化論、日常美学。著書『日本国際美術展と戦後美術史』(創元社)。

大城奈都 | おおしろ・なつ

大阪大学大学院人文学研究科博士前期課程。専門は映画研究。フランスの政治映画における集団性に着目した研究を行っている。

岩崎陽子 | いわさき・ようこ

大阪大学文学研究科博士課程修了。博士(文学)。現在、嵯峨美術短期大学教授、オルファクトリーフレイル学会副代表理事、Perfume Art Project代表。専門はフランス美学・哲学。香りのアートのプロジェクトや展覧会を国内外でキュレーション。

八幡さくら | やはた・さくら

神戸学院大学人文学研究科博士課程修了。博士(学術)。現在、一橋大学大学院言語社会研究科講師。専門は、シェリング芸術哲学を中心としたドイツ観念論、ドイツ・ロマン主義。著書『シェリング芸術哲学における構想力』(晃洋書房)。

a+a 美学研究

第16号

発行日 2025年11月30日

編集委員 高安啓介
田中 均
東 志保
岩崎陽子

編集協力 大城奈都
前田遙香

編集・発行 大阪大学大学院人文学研究科美学研究室
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
装丁・組版 松本久木(松本工房)
印刷・製本 株式会社 ケースアイ

©2025大阪大学美学研究室

Printed in Japan

ISSN 1346-1095

本雑誌はJSPS科研費(23K11723)の助成による。

『a+a美学研究』は、美学の知をより多くの方々と共有できることを目指しています。新しい研究を紹介する学術雑誌としての機能を保ちながら、美学への理解を深めたい学生にとっても、芸術に興味のある読者にとっても、知の道標となるような特集をこれから組んでいきます。この雑誌の編集にあたっては、コミュニケーションの様態への関心から、知の内容だけでなく知の形式についても反省をめぐらし、見出された知見がいかに社会のうちに浸透していくのか、重要と思われる事柄がいかに社会のうちに共有されるのか、美学の思考をそこまで駆り立ててみたいと思います。